

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 キョーリン
コード番号 4569 URL <http://www.kyorin-gr.co.jp>代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長
四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日(氏名) 山下 正弘
(氏名) 伊藤 洋
配当支払開始予定日TEL 03-3293-3420
平成21年12月4日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	45,714	13.5	4,569	267.4	5,172	339.9	3,293	—
21年3月期第2四半期	40,261	—	1,243	—	1,175	—	△1,606	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	44.05	—
21年3月期第2四半期	△21.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	127,728	100,024	78.3	1,338.01
21年3月期	124,552	96,501	77.5	1,290.67

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 100,024百万円 21年3月期 96,501百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	4.00	—	9.00	13.00
22年3月期	—	10.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	35.00	45.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	99,500	9.5	12,000	34.0	12,800	39.0	8,100	297.6	108.35

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規一社(一)、除外2社(社名 株式会社日本メディカルアドバンス、ビストナー番号投資事業有限責任組合)
(注)詳細は4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第2四半期	74,947,628株	21年3月期	74,947,628株
② 期末自己株式数	22年3月期第2四半期	191,583株	21年3月期	179,456株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第2四半期	74,761,838株	21年3月期第2四半期	74,808,121株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成21年5月13日に公表いたしました平成22年3月期の連結業績予想のうち、通期について本資料において修正しております。詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。
2. 本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

株式会社キョーリン（以下「当社」）グループの中核事業が属する医薬品業界の当第2四半期連結累計期間の状況は、国内外での市場競争が激化するなど環境は一層の厳しさを増しました。また、新薬の承認基準の厳格化により開発難度は高まり、薬価制度の改革についての議論が本格的に開始されるなど先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況下、当社グループは平成21年度の経営方針に「活気と笑顔に満ちた企業グループへの発展」を掲げ、企業経営に取り組みました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は下記の通りとなりました。

売上高	4 5 7 億 1 4 百万円	（前年同期比	1 3 . 5 % 増）
営業利益	4 5 億 6 9 百万円	（前年同期比	2 6 7 . 4 % 増）
経常利益	5 1 億 7 2 百万円	（前年同期比	3 3 9 . 9 % 増）
当四半期純利益	3 2 億 9 3 百万円	（前年同期比	—

販売の状況につきましては、以下のとおりであります。

①医薬品事業

国内新医薬品では、営業活動を呼吸器内科・耳鼻科・泌尿器科を中心とするユーザーに重点化するFC（フランチヤイズカスタマー）戦略を推進し営業力強化に努めた結果、367億33百万円（前年同期比17.6%増）の売上を計上いたしました。主要製品では、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」、過活動膀胱治療剤「ウリトス」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」の売上が順調に推移いたしました。「キプレス」におきましては、成人アレルギー性鼻炎での処方拡大したこと、「キプレス細粒4mg」の市場への浸透が進展したこと等により売上が好調に推移いたしました。「ペンタサ」におきましても、平成20年10月1日に実施しました杏林製薬株式会社による日清キョーリン製薬株式会社の吸収合併に伴う販売移管等により、売上が大幅に増加いたしました。一方、脳血管障害・気管支喘息改善剤「ケタス」、活性型ビタミンD3製剤「ロカルトロール」、胃炎・胃潰瘍治療剤「アプレース」は前年を下回る実績となりました。なお、広範囲経口抗菌薬「ガチフロ」におきましては、平成20年9月30日付けで自主的に販売を中止しております。

また、平成21年7月27日に「ガチフロキサシン点眼液」の中国における独占的な販売権を付与する契約を千寿製薬株式会社と締結し、平成21年9月29日に「ウリトス」の中国・アセアン諸国・インド・スリランカにおける独占的開発権及び販売権を供与するライセンス契約をエーザイ株式会社と締結いたしました。

海外新医薬品他では、広範囲抗菌点眼剤「ザイマー（導出先；米国アラガン社）」の売上減少等により、売上が12億78百万円（前年同期比29.2%減）となりました。

ジェネリック医薬品では、キョーリン リメディオ株式会社を主体とする売上が、日清キョーリン製薬からの承継品及び昨年度に発売した追補品の売上増加により、35億84百万円（前年同期比22.3%増）となりました。

②ヘルスケア事業

一般用医薬品他では、杏林製薬の一般用医薬品の売上が前年を上回ったものの、製剤技術を応用した化粧品事業を行うドクタープログラム株式会社の売上は景気の悪化の影響もあり減少いたしました。その結果、ヘルスケア事業の売上は34億69百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

③販売促進・広告の企画制作他

販売促進・広告の企画制作事業他の売上は6億49百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

当社グループの中核事業における新薬の研究開発の状況につきましては、感染症、免疫・アレルギー、代謝性疾患に研究領域を重点化し資源を集中的に投入しており、杏林製薬創薬研究所、米国ActivX社、キョーリンスコットランド研究所において日・米・欧3極での創薬ネットワークによる効率的な研究開発を推進いたしました。当期の研究開発費は56億70百万円（前年同期比14.1%増）となりました。

新薬開発の進展状況としましては、海外において糖尿病治療薬「KR P-104」のPh IIb臨床試験を平成21年11月に開始いたしました。また、平成21年11月5日に耳鳴治療薬「Neramexane」の国内ライセンス契約をMerz社（ドイツ）と締結し、日本における同化合物の独占的な開発権、製造権及び販売権を取得いたしました。

生産面では、杏林製薬能代工場（秋田県）及び岡谷工場（長野県）、キョーリン リメディオ（株）井波工場（富山県）の3工場において高品質の製品を効率的に生産し、安定的に供給できる体制の構築に努めました。

以上の結果、売上は国内新医薬品における主要製品の好調な推移、ジェネリック医薬品の伸長により増加し、前年同期実績を大幅に上回りました。また売上原価率は「ペンタサ」の自社製造等により約7ポイント改善し、売上総利益は286億79百万円と前年同期比61億37百万円増となりました。一方、販売費及び一般管理費は日清キョーリン製薬の統合等により241億09百万円と前年同期比28億11百万円増（研究開発費7億02百万円増）となりました。

利益面では、営業利益は45億69百万円と前年同期比33億25百万円の増益（前年同期比267.4%増）となりました。特別利益は9百万円、特別損失は50百万円を計上し、当第2四半期連結累計期間の四半期純利益は32億93百万円と前年同期比49億00百万円の増益となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産は、流動資産が現金及び預金、繰延税金資産の増加等により45億89百万円増加し、固定資産が投資有価証券の増加、繰延税金資産の減少等により14億12百万円減少したため、前連結会計年度末と比較して31億76百万円増加し、1,277億28百万円となりました。

負債は、支払手形及び買掛金、未払法人税等の増加、短期借入金、長期借入金の減少等により、前連結会計年度末と比較して3億47百万円減少し、277億04百万円となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加等により、前連結会計年度末と比較して35億23百万円増加し、1,000億24百万円となりました。

この結果、自己資本比率は78.3%となり、前連結会計年度末より0.8%増加いたしました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、74億53百万円の収入であり、これは主に税金等調整前四半期純利益51億31百万円、減価償却費13億62百万円、売上債権の減少35億61百万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、6億11百万円の収入で、これは主に有価証券の売却及び償還による収入14億00百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入5億01百万円、投資有価証券の取得による支出14億99百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、21億72百万円の支出で、これは主に短期借入金の減少12億62百万円、配当金の支払6億71百万円によるものです。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して59億58百万円増加し、183億22百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における業績の状況を勘案し、平成21年5月13日付けで当社決算短信にて発表しました平成22年3月期の業績予想を以下の通り修正いたします。なお、キョーリン リメディオ(株)及び(株)杏文堂につきましては、同社の親会社である(株)キョーリンの事業年度が毎年4月1日から翌年3月31日であることから、効率的な業務執行を目的とし決算期を変更する予定です（キョーリン リメディオ(株)：1月31日から3月31日へ変更、(株)杏文堂：2月末日から3月31日へ変更）。

売上高 995億円（前年同期比 9.5%増）

（海外売上における為替レートは1US\$91円、1ユーロ128円を想定し、計画しております）

営業利益 120億円（前年同期比 34.0%増）

経常利益 128億円（前年同期比 39.0%増）

当期純利益 81億円（前年同期比 297.6%増）

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

当第2四半期連結会計期間より、株式会社日本メディカルアドバンスは、当社の連結子会社である株式会社杏文堂を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

また、当第2四半期連結会計期間において、ピストナー壱号投資事業有限責任組合は清算を結了したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,682	12,223
受取手形及び売掛金	32,054	35,615
有価証券	4,954	3,500
商品及び製品	9,942	9,454
仕掛品	1,134	1,429
原材料及び貯蔵品	8,474	7,304
繰延税金資産	2,784	2,067
その他	3,795	3,680
貸倒引当金	△92	△134
流動資産合計	79,729	75,140
固定資産		
有形固定資産	16,650	17,122
無形固定資産		
のれん	774	953
その他	532	679
無形固定資産合計	1,306	1,632
投資その他の資産		
投資有価証券	24,592	23,531
繰延税金資産	4,015	5,042
その他	1,708	2,378
貸倒引当金	△275	△294
投資その他の資産合計	30,041	30,657
固定資産合計	47,999	49,412
資産合計	127,728	124,552

(単位：百万円)

当第2四半期連結会計期間末
(平成21年9月30日)

前連結会計年度末に係る
要約連結貸借対照表
(平成21年3月31日)

負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,591	8,258
短期借入金	2,897	4,149
未払法人税等	2,134	963
賞与引当金	2,742	2,560
返品調整引当金	125	110
ポイント引当金	63	57
その他	4,957	5,614
流動負債合計	21,512	21,715
固定負債		
社債	60	90
長期借入金	773	945
退職給付引当金	4,372	4,330
役員退職慰労引当金	46	87
その他	939	883
固定負債合計	6,191	6,336
負債合計	27,704	28,051
純資産の部		
株主資本		
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	94,931	92,310
自己株式	△267	△250
株主資本合計	100,116	97,513
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11	△852
為替換算調整勘定	△103	△159
評価・換算差額等合計	△91	△1,012
純資産合計	100,024	96,501
負債純資産合計	127,728	124,552

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	40,261	45,714
売上原価	17,718	17,035
売上総利益	22,542	28,679
販売費及び一般管理費	21,298	24,109
営業利益	1,243	4,569
営業外収益		
受取利息	191	171
受取配当金	73	49
受取賃貸料	67	138
持分法による投資利益	—	100
その他	85	211
営業外収益合計	418	671
営業外費用		
支払利息	23	29
持分法による投資損失	438	—
投資事業組合損失	—	21
その他	24	18
営業外費用合計	486	69
経常利益	1,175	5,172
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	9
投資有価証券売却益	70	—
償却債権取立益	22	—
その他	0	—
特別利益合計	92	9
特別損失		
固定資産除売却損	36	20
投資有価証券売却損	—	5
たな卸資産除売却損	90	—
製品販売中止損失引当金繰入	2,570	—
投資有価証券評価損	418	23
特別損失合計	3,116	50
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,847	5,131
法人税、住民税及び事業税	1,353	2,129
法人税等調整額	△1,594	△290
法人税等合計	△240	1,838
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,606	3,293

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,847	5,131
減価償却費	2,030	1,362
製品販売中止損失引当金の増減額(△は減少)	2,570	—
受取利息及び受取配当金	△264	△221
支払利息	23	29
投資有価証券評価損益(△は益)	418	23
売上債権の増減額(△は増加)	1,736	3,561
たな卸資産の増減額(△は増加)	△922	△1,363
仕入債務の増減額(△は減少)	△414	332
その他	215	△648
小計	3,544	8,209
利息及び配当金の受取額	246	233
利息の支払額	△23	△31
法人税等の支払額	△39	△957
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,727	7,453
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却及び償還による収入	1,299	1,400
有形固定資産の取得による支出	△985	△481
有形固定資産の売却による収入	3	0
無形固定資産の取得による支出	△37	△39
投資有価証券の取得による支出	△3,469	△1,499
投資有価証券の売却及び償還による収入	1,786	501
その他	99	729
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,303	611
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	710	△1,262
長期借入金の返済による支出	△145	△162
配当金の支払額	△561	△671
その他	△87	△76
財務活動によるキャッシュ・フロー	△84	△2,172
現金及び現金同等物に係る換算差額	△63	66
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,275	5,958
現金及び現金同等物の期首残高	9,599	12,363
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,875	18,322

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

医薬品事業の売上高及び営業利益の金額は、全セグメントの売上高の合計及び営業利益の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年9月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。